



2016.10.5

No. 273

MONTHLY

# れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会 発行責任者 杉山 元  
〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

## めざすのは、連携による地域のイノベーション 「地域活性化フォーラム in 道北」を開催

連合北海道が主催し、連合上川地協と旭川ウェルビーイング・コンソーシアムが共催する「地域活性化フォーラム in 道北」が9月24日、旭川市の道北経済センターで開催された。当日は土曜にもかかわらず、会場をほぼ埋め尽くす273人が道北各地をはじめ全道から来場、「『産学官金労言』の連携強化で、地域社会を豊かに」をテーマに講演とパネルディスカッションが行われた。

主催者の連合北海道・出村会長は、冒頭、北海道を襲った台風災害の被災者にお見舞いの言葉を述べたうえで、子どもの6人に1人が貧困である社会状況や希望しても正規になれない労働者の実態に触れ、「地域での安定した雇用の場をつくること、そのために地域企業や様々な団体が元気で、連携して取り組まなければならない」と述べた。来賓の西川旭川市長は、「地域には素晴らしい資源があり、どのように発掘して可能性を伸ばせるか、そして、その成果を次世代にバトンタッチできるかが鍵だ」と話すとともに、フォーラム開催のお礼と議論への期待を述べた。

基調講演は、旭川家具工業協同組合の渡辺代表理事から「デザインとものづくりによる地域活性化」、旭川大学経済学部の江口教授から「道北の未来に向けて我々ができること」として実施。渡辺代表理事は、抜群バトンタッチでリオ五輪において銀メダルを獲得した男子100M×4リレーを引き合いに、「徹底的に強みを伸ばすことが地域企業に必要」と主張した。そのうえで、優秀な家具職人や旭川デザインの先進性、道産樹木の優位性など旭川の家



具工業の強みや独自性を紹介、「旭川家具の強みを総動員して、世界一の市場をめざす」と述べた。江口教授は、雇用のミスマッチが起こっている状況など旭川のまちづくりにおける課題を各種の統計から指摘。また、「企業も大学も、必要なのはイノベーション・新結合」とし、大学のゼミで実施しているラーメン出店や商店街マップ作成などの実践を紹介しながら、「地域や産官学などの連携で、めざすのは地域のイノベーションだ」と訴えた。

パネルディスカッションは、旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの竹中氏をコーディネーターとし、渡辺代表理事、江口教授に加え、旭川市子育て支援部母子保健課の阿保課長、旭川まちづくりプランコンテストの浅沼実行委員長、連合上川地協の三村会長の5人をパネラーに実施。若者と地域連携をテーマに議論を進めた。

阿保課長は、子ども子育て支援の観点から、将来を見据えた地域づくりのため、命の大切さを教える小中学校への出前授業・私の未来プロジェクトの取り組みを紹介。「大学生や保護者、企業との連携が様々な効果を生む」とし、「こうした連携を繋いでいくのが行政の役割」と語った。浅沼実行委員長は、「まちづくりコンテスト」だけでなく、「常盤ラボ」というコミュニケーションの場を常設した経緯を説明、「若者と社会との連携でまちづくりをしていく『文化』を育てたい」と述べた。また、情報技術などが発達した今後の社会・生活スタイルは、正解がわからないからこそ、互いの強みを活かして連携し、役割分担のもと進めていく必要性を語った。

三村会長は、連合北海道の取り組みを紹介したうえで、教員として関わった学校現場の課題や子どもの実態



に触れ、労働者の賃上げや長時間労働の解消、子育て環境の整備、格差是正の必要性を述べた。渡辺代表理事は、若者が世界に目を向ける必要性や世界との連携の必要性を強調した。江口教授は、ラーメン出店などのゼミ活動を通じて学生が地元企業などとの連携で活用できる本当の知識を得

ているとし、「地域の良さを知れば、地域を愛し、若者は活動にやる気をみせる。これを基盤に地域がもっと元気になれば良い」と述べ、若者を地域で育てる重要性を語った。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=2404>

## 「2016平和行動 in 根室」開催 「ノサップ集会」などに全国から1200名結集

日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエト連邦によって不法占拠されてから71年が経過する中、連合は9月10日から11日の2日間にわたり「2016平和行動 in 根室」を開催した。

1日目は、北方四島交流センターにおいて「北方四島学習会」が開催され約700名が参加した。学習会では第一部として映画「ジョパンニの島」が上映された。第二部では4つのセミナーが開催され、次世代への継承、島の現状や諸課題、日ロ交渉の打開の道など様々な観点から北方四島について学んだ。

2日目、納沙布岬・望郷の岬公園において開催された「2016平和ノサップ集会」には、全国から約1200名の仲間が結集した。オープニングでは今回初めての取り組みとなる北海道・広島・長崎・沖縄の青年委員会が構成するピースキャラバン隊が会場に迎え入れられ、参加者は仲間の到着に拍手を送った。キャラバン隊は札幌をスタートし、平和の重要性をアピールしながら根室納沙布までおよそ680kmを走行。会場ではそれぞれキャラバンを通して感じた平和への思いを訴えた。

引き続き、集会の主催者挨拶にたった連合逢見直人事務局長は、まず冒頭で去る9月9日に北朝鮮が5回目の核実験を行ったことにふれ「国連安全保障理事会の全会一致の決議を無視するものであり、国際社会の平和と安定に対する重大な挑戦であり、この行動に強く抗議するとともに、1日も早く拉致被害者を日本に戻すことを改めて強く求める」と述べた。更に本題である、ロシア政府がクリル社会経済発展計画に莫大な予算を投じ、北方四島占有の既成事実化を進めていること、メドベージェフ首相が択捉島を訪問し、今後も北方領土における軍事を強化するなどの方針を明らかにしている情勢についてふれた。このような中、本年12月に安倍首相とロシアのプーチン大統領による首脳会談が開かれる見通しであることについて「日本政府は北方領土の返還に向けた道筋を速やかに見直し、より戦略的な外交交渉を行うことを



強く求める。連合も民間の立場からその後押しに向けて尽力する」と決意を述べた。そして今後、取り組むべき課題として、次世代への継承や、より戦略的な観点に基づくビザなし交流が実施されるよう協議を進めること、北方四島にかつて日本人が住んでいた証を後生に残す取り組みを挙げ、今後も運動を強化していくとした。また、地元北海道を代表し挨拶にたった連合北海道出村良平会長は、「元島民の方も減り、平均年齢も高齢化してきている。一刻も早い北方領土の返還、日ロの平和条約の締結が求められる。しかし北海道の中でも残念ながら北方領土の歴史を十分伝えきれていない、また私たちの中でも時間の経過とともに思いが十分に伝えきれていない状況にある。しっかり今日見たこと、聞いたこと、学んだことをぜひ組織や職場、家庭に戻って伝えてほしい」と訴えた。

続いて、平和リレーが行われ、平和4行動スタートの地、沖縄へピースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協浅野康敏会長が四島一括返還を願って力強い団結ががんばろうで締めくくった。

連合北海道は、今後も北方四島の早期返還と、日ロ平和条約の締結による真の友好関係の構築に向け、職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=2374>



# 2016年第19代高校生平和大使 帰国報告

高校生平和大使が今年もスイス・ジュネーブの国連欧州本部などを訪問し、全国から集まった署名を届けたほか、スピーチや街頭署名活動などを通して、核兵器廃絶

と世界平和の実現を訴えた。北海道からは、立命館慶祥高校3年の下町舞さんと、札幌光星高校1年の和泉砂絵さんの2名が派遣され、このほど帰国報告を行った。



**下町 舞さん**  
立命館慶祥高校(3年)

このスイス派遣を経て、私たちは数多くの経験を積むことが出来ました。私がこの旅の中で一番感じたこと、それは私たちの願いと日本政府の考えとの大きな違いです。私たち平和大使の活動が日本国内で認められ、世界でも受け入れられている反面、日本政府は核兵器廃絶を時期尚早としています。世界には核兵器廃絶の声を届け、距離が一步また近づくことが出来ましたが、日本政府とは距離が遠のいてしまった気がしました。世界には核兵器廃絶の声を届けることが出来たが日本政府にはまだまだ届かない。唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶に対しリーダーシップを取らなければならないはずなのに、「核兵器廃絶は時期尚早」という言葉には違和感を覚えました。

また、私は軍縮会議での中国の発言がとても印象に残っています。中国は私たちを歓迎すると述べた後に、皮肉めいた言葉で中国の見解としながら第二次世界大戦中の日本を遠回しな表現で発言していました。被害面だけでなく加害面も学ぶこと。また発言の中に「歴史は憎しみを生むためのものではない、過去の過ちを繰り返さないためにあるのだ」と発言していました。歴史認識の違いから生まれている対立を、対話を通じて乗り越える。これはとても大事だと改めて感じました。

首都ベルンでの署名活動では、3~4人ほどのグループで行いました。現地の方に話しかけると、カタコトな英語にも関わらず耳を傾けてくれ、私たちの思いを伝えることが出来ました。中には私たちと年代代くらいの方たちも署名してくれる方もいて、これからの平和活動は、私たちの世代が引っ張っていかなければならないと改めて感じました。

私たちが今できること、それは「学ぶ」ことだと感じました。世界や日本国内の情勢、各国の考え、そして、歴史。私たちは被爆者の話を聞くことのできる「最後の世代」と言われています。被爆者が少なくなっている中で、私たちが「学ぼう」としなければ戦争は風化し、また同じ過ちを繰り返してしまうかもしれません。そうならないためにも、被害面だけでなく加害面も学び、伝えていくことが核兵器廃絶、そして平和へと近づく一步になるのではないかと私は強く感じました。このスイス派遣で学んだこと、感じたことを北海道でより多くの人に伝え、記憶を継承する活動に精進していきたいと思えます。ご支援本当に有難うございました。

**和泉 砂絵さん**  
札幌光星高校(1年)



私はこの旅を通じて日本にいただけではわからないことをたくさん学ぶことが出来ました。

まず、私は軍縮会議日本政府代表部を訪問したことがとても印象に残っています。この訪問では佐野大使への表敬訪問を行い私たちから質疑応答をすることが出来ました。その際に佐野大使は核抑止力について「国家間の安全保障という面から見ると抑止力という考え方は無視できない」と発言していました。これを聞いて、私は、自分たちの「核兵器は何があっても存在してはならない」という考え方をより強く持ち、もっともっと主張していくことが重要であると感じました。

また、私はトローゲン州立学校を訪問した際に生徒の方々と意見交換をしたことも平和について考えなおすとてもよい機会であったと思います。この時、私が隣に座っていた高校生に折り鶴がなぜ平和の象徴と言われているか知っているか聞くと、その生徒が知っているよと答えてくれたことが今でもとても印象に残っています。スイスの高校生も広島で被爆した佐々木貞子さんについて知っていたことに驚き、彼らの平和への意識の高さを知り、同じ若者として自分ももっと知識量や平和への思いを高めていかなければならないと感じました。

今回の旅では、自分たちの核兵器廃絶を求める願いを多くの場所で発信することができたのと同時に、様々な立場の方の意見を聞き、吸収することが出来ました。このことは間違いなく自分のこれからの活動にとって、とても大きな糧になることと思います。今回の体験を自分の中でとどめていくことはせずに、まずは自分の周りに発信していくことから、自分の理念である「平和の輪を広げる」ことを始めようと思えます。



## 安全保障関連法の強行採決1年経過における談話

昨年の今日・9月19日未明、安全保障関連法は成立した。

憲法学者や元最高裁長官、元内閣法制局長官が違憲とし、各級議会では、反対や慎重審議を求める意見書採択が相次いだ。そして学生や大学関係者、文化人、母親、会社員ら、多くの国民が全国各地のデモや集会で、それぞれの声で反対を訴えた。

しかし、安倍政権は一顧だにせず、歴代内閣が禁じてきた集団的自衛権行使の憲法解釈を変更し、海外での武力行使に道を開き、自衛隊による米軍支援を地球規模に拡大できる法律を強行採決した。

数の力を背景に強行採決された安全保障関連法は、明らかに民主主義を否定し、立憲主義に基づく日本国憲法に違反している。

労働組合は、労働者を人間として認め、「自由と平等」の基本的な人権を求める運動から誕生した。平和、人権、そして民主主義は労働組合運動の基本である。

平和、人権、そして民主主義は、戦後最大の危機にある。法律を行使させはしない。

私たち連合北海道は、この暴挙を決して忘れない。安全保障関連法の廃止を強く求めるものである。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=2385>

## 北朝鮮による核実験の実施に断固抗議する談話

9月9日、北朝鮮は核実験を実施したことを発表した。今年2度目であり、初の核実験が行われた2006年10月以降、2009年5月、2013年2月、および2016年1月に続き5度目となる。

今回の核実験は、国連安全保障理事会が本年3月に全会一致で採択した1月の核実験に対する制裁強化決議を無視するものであり、核兵器廃絶に向けた動きに逆行するものである。このような国際社会の平和と安定に対する重大な挑戦に対し、連合北海道は強く抗議する。

連合北海道は、日本が唯一の被爆国として、あらゆる国のいかなる核兵器・核実験に対しても反対し、核兵器の廃絶、核実験の全面禁止の実現に向け、運動を進めてきた。毎年8月には広島・長崎での平和行動に取り組み、そして、核兵器廃絶と若い世代への運動の継承をめざし、8月13日から国連への高校生平和大使の派遣を行うと共に、派遣にあたっては、核廃絶と平

和な世界の実現を目指す高校生一万人署名活動などに取り組んできたところである。北朝鮮の核実験の強行は、こうした核兵器廃絶に向けた動きに水をさし、日本をはじめ、平和を希求する諸国の願いを踏みにじるもので決して認められるものではない。

北朝鮮は、核実験に加えて、今年に入り弾道ミサイルの発射を繰り返している。連合北海道は、北朝鮮に対して、すべての核実験とミサイル発射の即時中止を強く求めるとともに、国連安全保障理事会決議の完全なる履行を強く求める。また、日本政府に対しては、各国と連携して北朝鮮の核開発完全放棄や日本人拉致被害者問題の早期解決に向け断固たる姿勢で臨むことを要請するとともに、核兵器廃絶に向けて国際社会を牽引するよう要請する。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=2369>



2016  
ゴルフ場  
特別企画

ゴルフのおともに  
ぜひご利用ください。

ゆに・ぽん

2016  
夏休み版

道内のアミューズメント、  
ホテルなどが特別価格  
で利用できます。



10月の主な動き

イベントカレンダー

■女性委員会総会

1日(土) 14:00/TKP

■連合 北海道ブロック代表者会議

6日(木) 15:00/ガーデンパレス

■第13回執行委員会

12日(水) 10:00/連合北海道会議室

■第3回地方連合会代表者会議

13日(木) 14:00/福島市

■第73回中央委員会

14日(金)/福島市

■第13回中央執行委員会

20日(木) 13:30/連合会館

■判例研究会

20日(木) 18:30/かでの2・7

■2017年度予算に関する対道交渉

24日(月)/道庁

■2017春季生活闘争中央討論集会

31日(月) 13:00/東京

連合北海道第29回年次大会

日時/2016年10月27日(木) 9:30~

場所/ロイトン札幌 3F「ロイトンホール」